

令和6年度大学学長と区長との懇談会 会議内容（概要）

日時：令和6年11月7日（木）

会場：日本大学文理学部 本館2階 会議室A・B

懇談会内容

テーマ：「持続可能な未来に向けた目指すべき姿について」

1. 持続可能な未来に向けた目指すべき姿について

少子高齢化の進展や地域コミュニティの希薄化、物価動向の不確実性など将来の予測が困難な時代となっており、地域課題も複雑化・多様化している。

持続可能な未来（＝地域社会）を実現させるには、時代を切り開き、これからの地域を創造しうる人材とそうした人材を地域で育成するという循環を作り出すことが重要となる。

これらの実現に向け、大学と区の双方が前向きで当事者意識を持ち、子ども・若者をはじめとした全ての人がWin-Winとなる連携のあり方を模索するため、区と大学それぞれの目指す姿や必要な取組みを共有し共通点を確認した。

＜主な共通点＞

- 将来の予測が困難な時代において生き抜く力を備えた人材の育成
- 多様な人々及び地域と関り、つながることで様々な経験を蓄積することの重要性
- 地域社会の課題とその解決・実践に焦点をあてた研究等の取組みの重要性

2. 学長と区長との懇談

持続可能な未来づくりに向け、区と大学が如何に連携を深めていくべきか、また、地域課題の解決やイノベーション、グローバルな展開を視野に入れた取組みの重要性などについて学長との意見交換を行った。

ここでは、ふるさと納税を活用した大学支援の可能性や、脱炭素・環境対策について意見が交わされ、大学の専門知識を活かした環境教育の推進も重要な課題として認識された。

また、スポーツ振興と健康増進においては、大学施設を活用した地域スポーツ活動の展開や、競技スポーツと健康スポーツの両面での貢献可能性、部活動の地域移行において大学に何ができるかなどについて議論された。

さらに、教育支援・人材育成の面では、小・中学校への教育支援や教員養成、学生ボランティアの活用など、多岐にわたる連携の可能性が示された。また、連携の新たな展開イメージとして、区内大学・学部による一体的な連携や、せたがやPayを活用した地域経済活性化、留学生との国際交流、大学の専門性を活かした創業支援などが提案された。

今後の課題として、持続可能な地域づくりへの学生の主体的参加の促進、研究領域における行政との連携強化などが挙げられた。特に強調されたのは、単発的な連携ではなく継続的な仕組みづくりの重要性であった。

<主な意見>

- ふるさと納税の仕組みを活用した大学への寄附を実施してはどうか。区としてはふるさと納税による財源流出対策、大学としては広く資金源を獲得できる手法と考えられる。
- ふるさと納税の返礼品として、世田谷区内大学の授業を受けられるバウチャーを発行してはどうか。それによりバウチャーが選ばれるように良い授業をやろうというモチベーションや一体感が出るだけでなく、単位互換といった大学間の連携にも広がる可能性があると思う。
- 区内17大学の学生間の交流の場をつくることで、学生による地域活性化企画が生まれるのではないかな。
- 機会の提供とプロセスの提供、そこから何が学べるかというプロセスデザインにより、若者の良い経験になるだけでなく、それを応援してくれる地域の人たちがいるという人生の資産が得られると考える。
- 区内大学が一堂に会しつながっているというイベントを実施することで世田谷区一体となって大学の地を成長させていることが伝えられる。
- R E S A S（地域経済分析システム）の人口動態を見ると世田谷区は流出過多であり今後の税収維持は難しいと考えられる。持続可能な観点からNPOや社会的企業を増やす創業塾があっても面白いのではないかな。
- 経営学上、お金や物を貯めるよりも、人とのつながりや信頼を貯める取組みの方が持続可能性は高い。そうした取組みの効果測定としてせたがやP a yが活用できるのではないかな。
- 学生参加型の地域連携・社会貢献事業は社会実装の教育となる。区内の地域を活用した学問研究を続ける方向性を強めていきたい。

3. 令和7年度に向けて

学長と区長との意見交換を受け、区と区内大学のつながりが深まる取組みとその周知や区が直面する政策課題と大学の持てるリソースのマッチングが考えられそうな連携内容の実践を検討していく。